

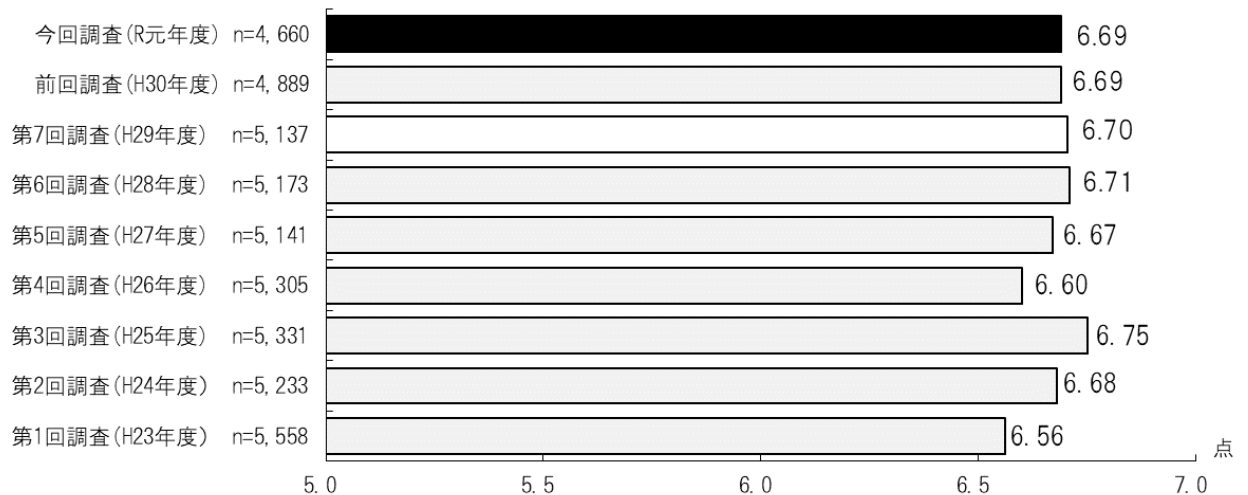
第1章

幸福感の現状

第1節 幸福感の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、今回調査（令和元年度実施）の平均値は6.69点で、第1回調査より0.13点高く、前回調査と同じになっています（図表1-1-1、図表1-1-2）。

図表1-1-1 幸福感の平均値の推移



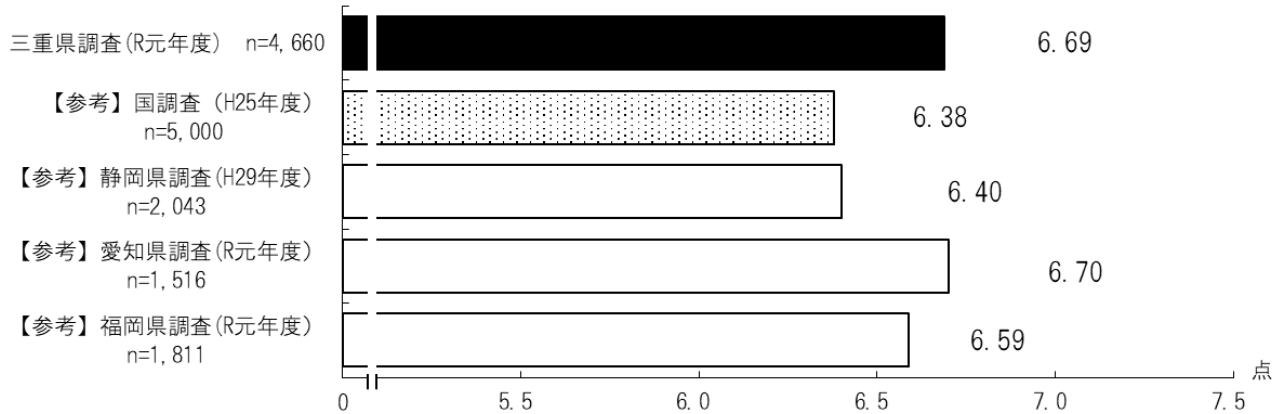
図表1-1-2 みえ県民意識調査の調査概要（第1回～第9回）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査
調査時期	平成24年1月～2月	平成25年1月～2月	平成26年1月～2月	平成27年1月～2月	平成27年11月～12月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,710(57.1%)	5,432(54.3%)	5,456(54.6%)	5,444(54.4%)	5,236(52.4%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法

	第6回調査	第7回調査	第8回調査口	第9回調査 (今回調査)
調査時期	平成29年1月～2月	平成30年1月～2月	平成31年1月～2月	令和2年1月～3月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の 10,000人
有効回答(率)	5,317(53.2%)	5,270(52.7%)	5,044(50.4%)	4,751(47.5%)
調査対象	18歳以上	18歳以上	18歳以上	18歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法 一部インターネット回答

また、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国や他県の調査結果は以下のとおりです(図表 1-1-3、図表 1-1-4)。

図表1-1-3 幸福感 (国調査及び他県調査との比較)



図表 1-1-4 参考とした国や他県の調査の概要

- ◎ 平成26年健康意識調査 (実施主体：厚生労働省)
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」(みえ県民意識調査と同一)
 - ・実施時期：平成26年2月
 - ・有効回答数：5,000
 - ・調査方法：インターネット
 - ・幸福感：6.38
- ◎ 平成29年度県政世論調査 (実施主体：静岡県)
 - ・質問：「あなたは現在、どの程度幸せですか。」(みえ県民意識調査と同一)
 - ・実施時期：平成29年6月～7月
 - ・有効回答数：2,043
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.40
- ◎ 令和元年度第1回県政世論調査 (実施主体：愛知県)
 - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」(みえ県民意識調査と同一)
 - ・実施時期：令和元年7月
 - ・有効回答数：1,516
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.7
- ◎ 令和元年度県民意識調査 (実施主体：福岡県)
 - ・質問：「現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。」
 - ・実施時期：令和元年7月
 - ・有効回答数：1,811
 - ・調査方法：郵送法
 - ・幸福感：6.59

第2節 幸福感の一属性クロス分析

幸福感を1つの属性（ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入）によるクロス分析を行いました。個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も併せて考察する必要があります。

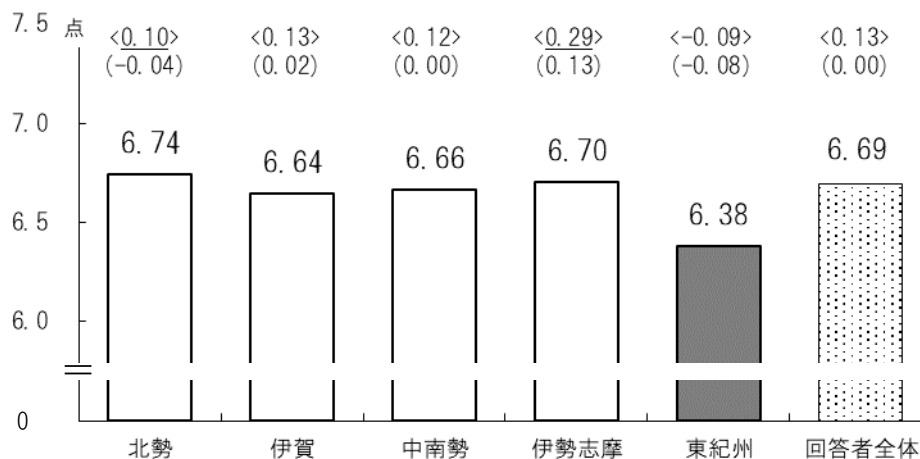
【凡例】

- 1 < >内の数字：第1回調査との差(点)
 ()内の数字：前回調査との差(点)
 下線の数字：統計的に有意な差がある場合
- 2 ■ 黒色：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 ■ 灰色：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 □ 白色：幸福感の平均値が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

1 地域別

回答者全体より、東紀州地域の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、北勢地域、伊勢志摩地域で幸福感が高くなっています（図表1-2-1）。

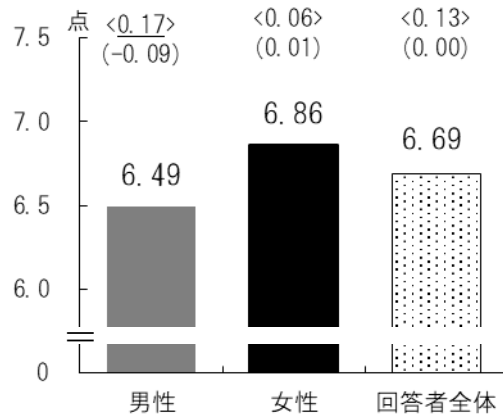
図表1-2-1 幸福感（地域別）



2 性別

第1回調査、前回調査と同様に、女性は男性より幸福感が高くなっています（図表1-2-2）。

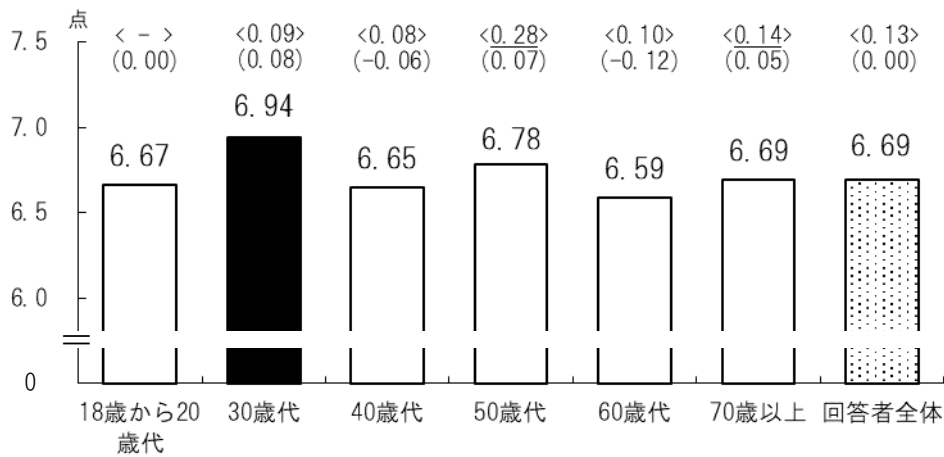
図表1-2-2 幸福感（性別）



3 年齢別

回答者全体より、30歳代の幸福感が高くなっています。第1回調査と比べ、50歳代と70歳以上の幸福感が高くなっています（図表1-2-3）。

図表1-2-3 幸福感（年齢別）

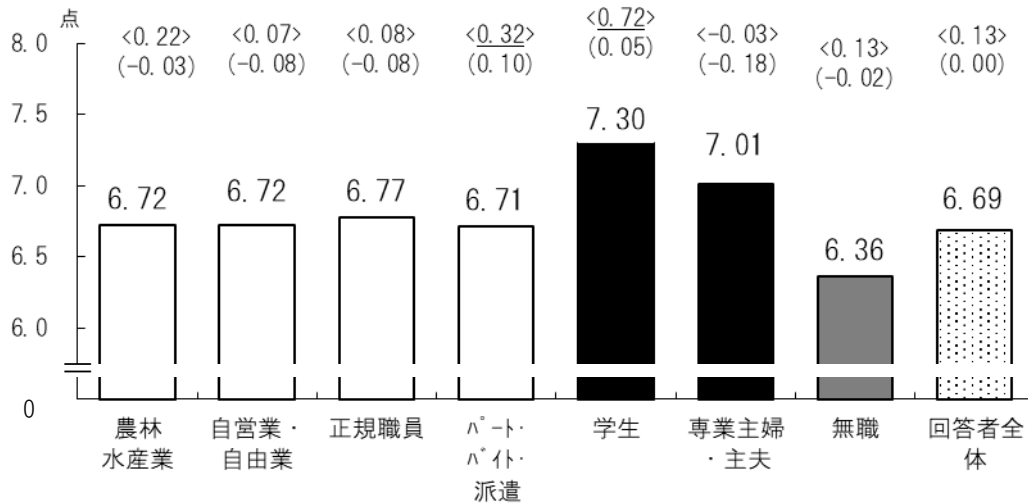


（備考）18歳から20歳代については、第6回調査からの調査項目であるため、第1回調査との比較を行っていません。

4 職業別

回答者全体より、学生及び専業主婦・主夫の幸福感が高く、無職の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、パート・アルバイト・派遣社員、学生が高くなっています(図表1-2-4)。

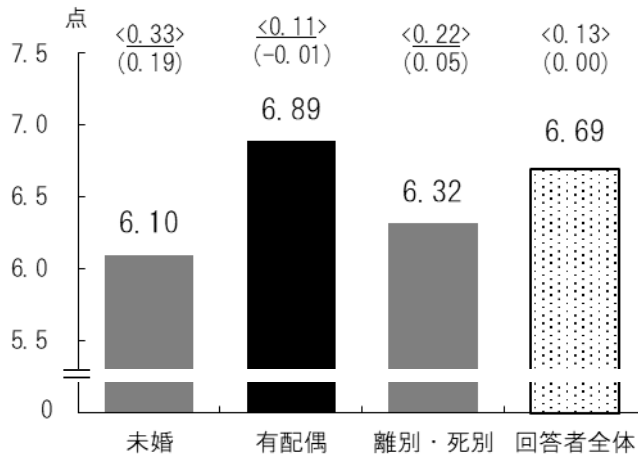
図表1-2-4 幸福感(職業別)



5 配偶関係別

回答者全体より、有配偶の幸福感が高く、未婚、離別・死別の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、すべての配偶関係で幸福感が高くなっています(図表1-2-5)。

図表1-2-5 幸福感(配偶関係別)

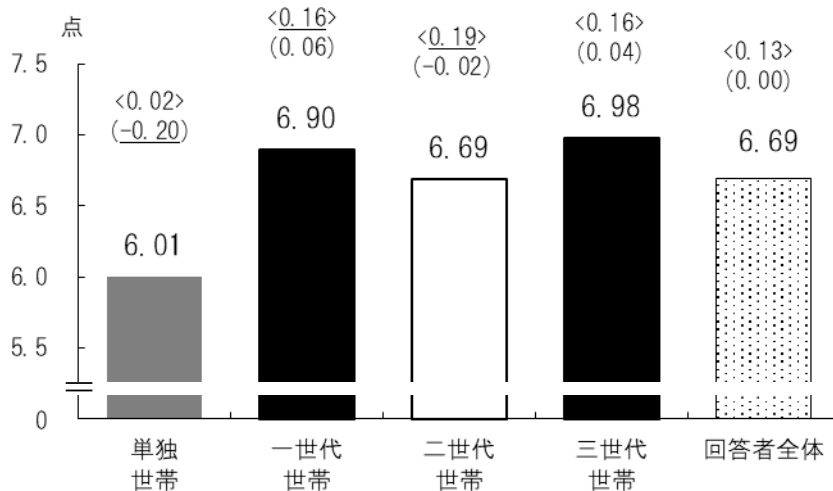


(備考)今回調査では、離別と死別を区分して質問していますが、過去との比較のため、離別・死別を合わせて集計しています。

6 世帯類型別

回答者全体より、三世帯世帯と一世代世帯の幸福感が高く、単独世帯の幸福感が低くなっています。前回調査との比較では、単独世帯の幸福感が低くなり、第一回調査と比べ、一世代世帯と二世帯世帯の幸福感が高くなっています(図表 1-2-6)。

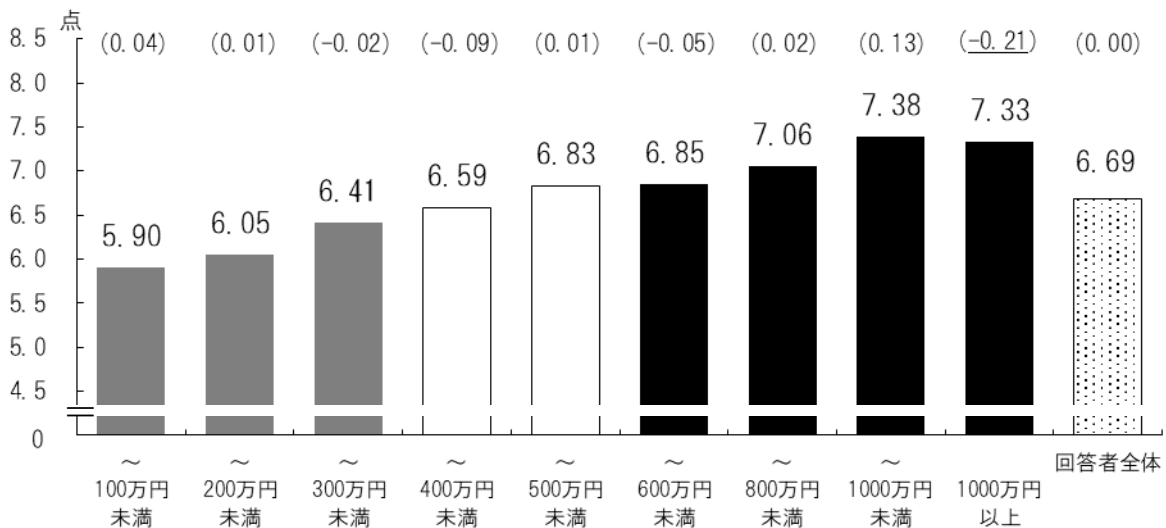
図表 1-2-6 幸福感 (世帯類型別)



7 世帯収入別

回答者全体より、300万円未満の層の幸福感が低く、500万円以上の層の幸福感が高くなっています。また、前回調査と比べ、1,000万円以上の層の幸福感が低くなっています(図表 1-2-7)。

図表 1-2-7 幸福感 (世帯収入別)



(備考) 第一回調査では異なる区分での世帯収入を質問しているため、第一回調査との比較はしていません。

8 幸福感の一属性クロス分析から判明した主なデータ

第1回調査から第9回調査まで、9回連続、回答者全体に比べ、幸福感が高いあるいは低い属性項目（統計的に有意な差がある場合）は次のとおりでした。

（幸福感が高い属性） 女性、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯

（幸福感が低い属性） 男性、無職、未婚、離別・死別、単独世帯

第3節 幸福感の2以上の属性クロス分析

個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するため、2以上の属性クロスのうち、特徴的な傾向がみられた属性の組合せを掲載しています。

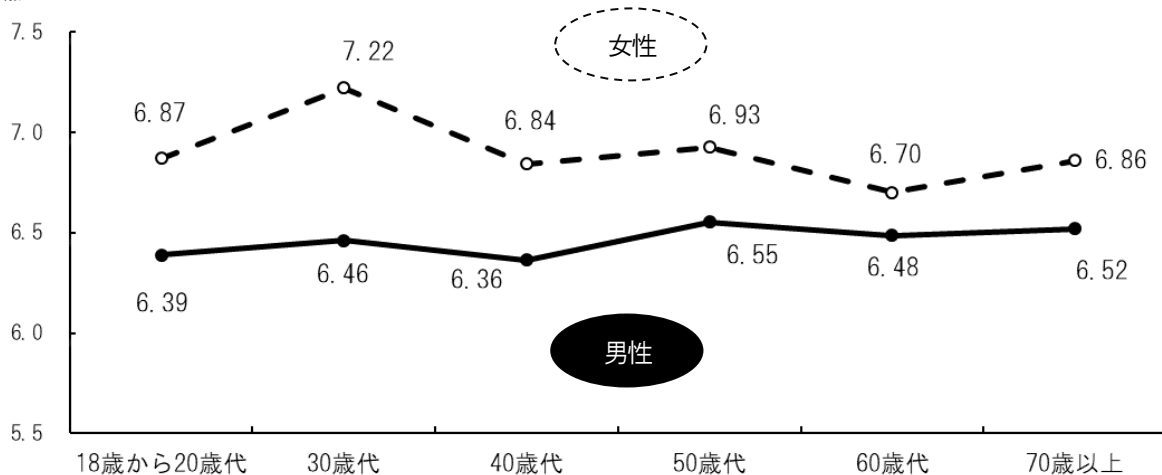
なお、分析にあたっては、すべての属性（性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入、地域）を2つ組み合わせてクロス分析を行いました。

1 年齢別・性別を中心とした2以上の属性クロス分析

(1) 年齢別×性別

年齢別×性別に幸福感を見ると、女性の幸福感が男性よりも高くなっています。特に30歳代で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-1）。

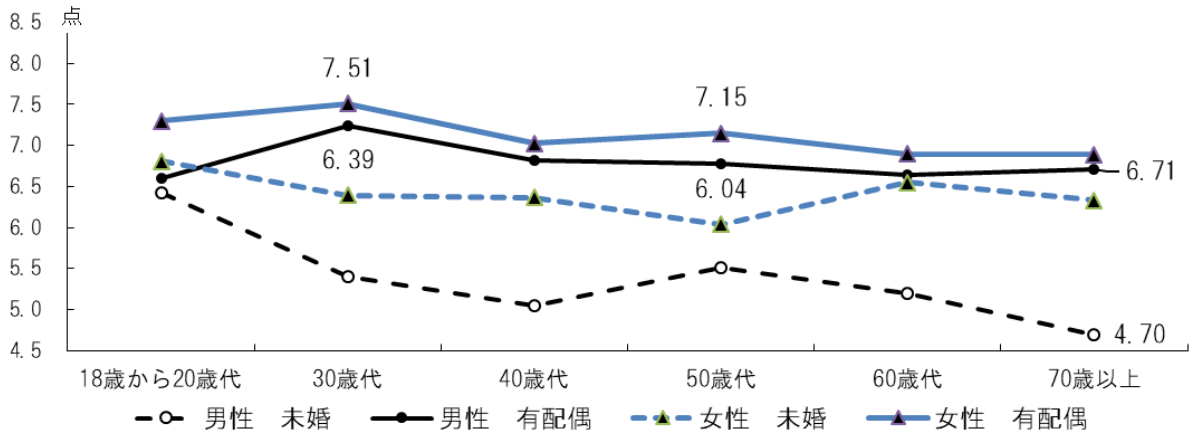
点 図表1-3-1 幸福感（年齢別×性別）



(2) 年齢別×性別×未婚・有配偶別

年齢別×性別×未婚・有配偶別に幸福感を見ると、男女ともに有配偶の人が未婚より幸福感が高くなっています。男性は30歳以上で、女性は30歳代、50歳代で未婚と有配偶の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-2)。

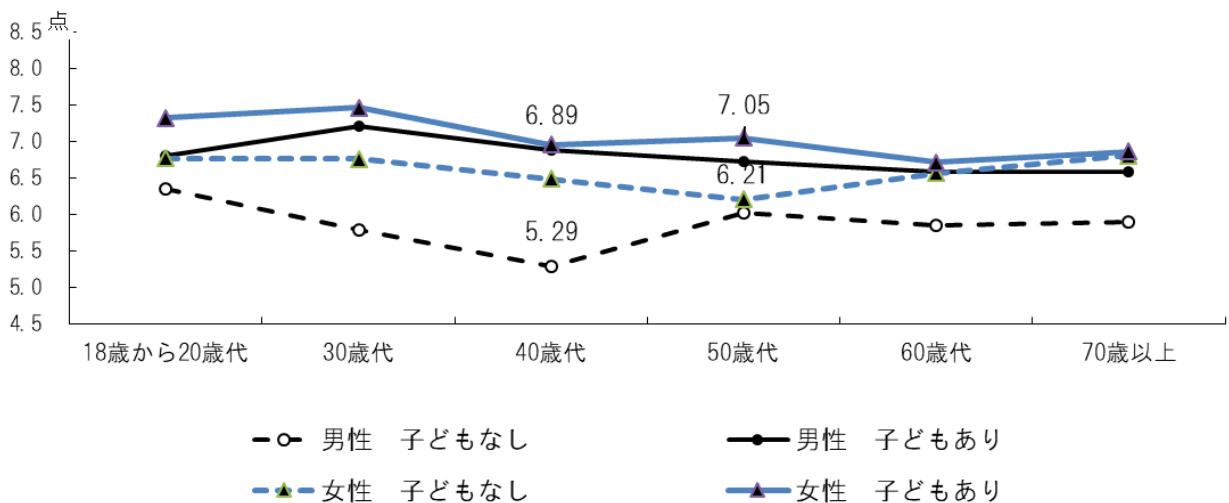
図表1-3-2 幸福感(年齢別×性別×未婚・有配偶別)



(3) 年齢別×性別×子どもの有無別

年齢別×性別×子どもの有無別に幸福感を見ると、男女ともに子どもありの層の方が子どもなしの層より幸福感が高くなっています。男性は30歳代、40歳代で、女性は50歳代で、子どもありの層と子どもなしの層の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-3)。

図表1-3-3 幸福感(年齢別×性別×子どもの有無別)

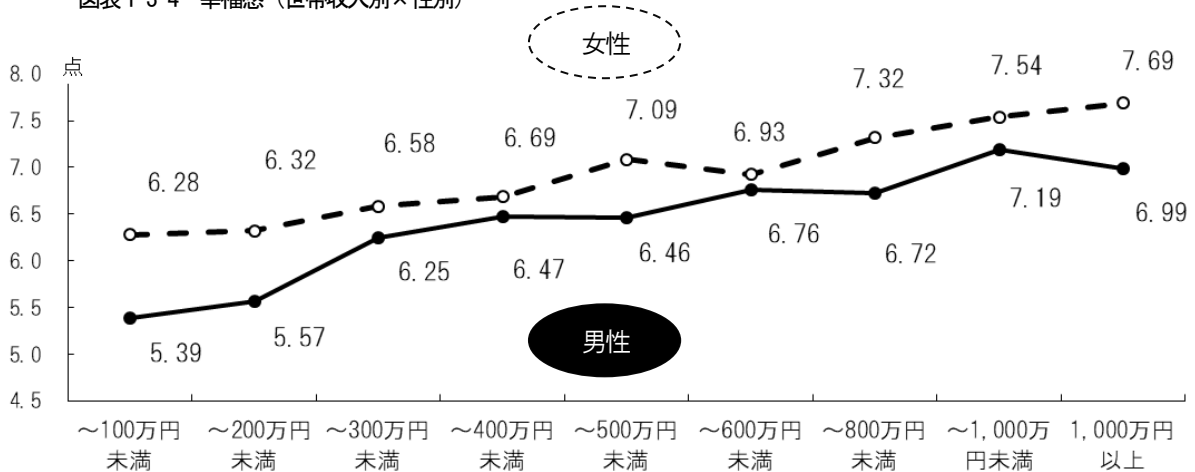


2 世帯収入別を中心とした二属性クロス分析

(1) 世帯収入別×性別

世帯収入別×性別に幸福感を見ると、男女ともに世帯収入が高くなるほど幸福感も高くなる傾向にあり、すべての世帯収入で女性の幸福感が男性よりも高くなっています。世帯収入100万円未満で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-4）。

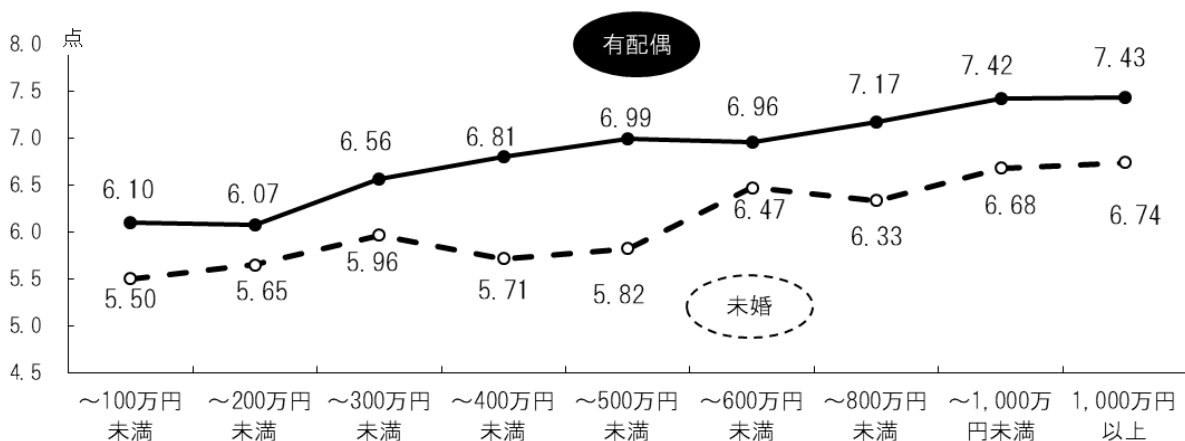
図表 1-3-4 幸福感（世帯収入別×性別）



(2) 世帯収入別×未婚・有配偶別

世帯収入別×未婚・有配偶別に幸福感を見ると、有配偶は世帯収入が高くなるほど幸福感も概ね高くなる傾向にあり、すべての世帯収入で有配偶の幸福感が未婚よりも高くなっています。年収400万円以上500万円未満の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-5）。

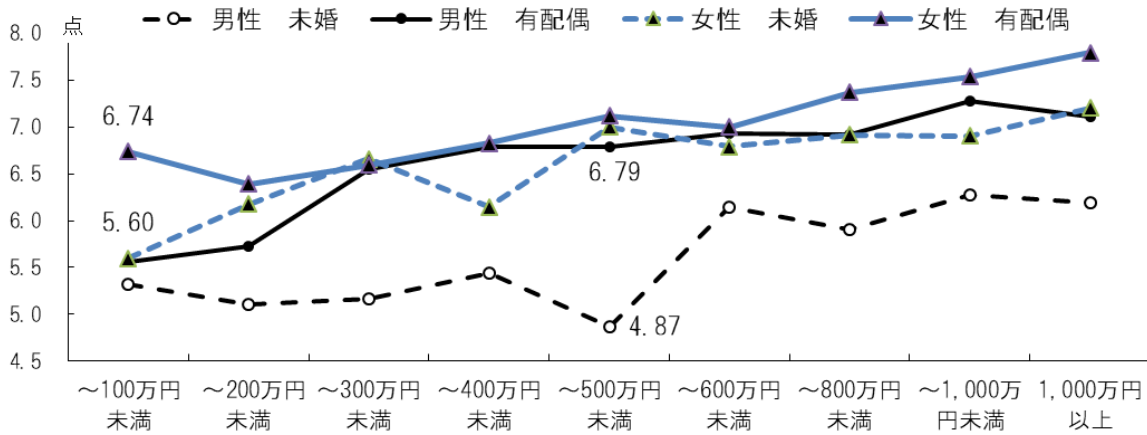
図表 1-3-5 幸福感（世帯収入別×未婚・有配偶別）



(3) 世帯収入別×性別×未婚・有配偶別

世帯収入別×性別×未婚・有配偶別の幸福感を見ると、男性では、世帯収入にかかわらず概ね未婚よりも有配偶の幸福感が高い傾向がありました。男性では世帯収入400万円以上500万円未満において、女性では100万円未満において、未婚と有配偶との幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-6）。

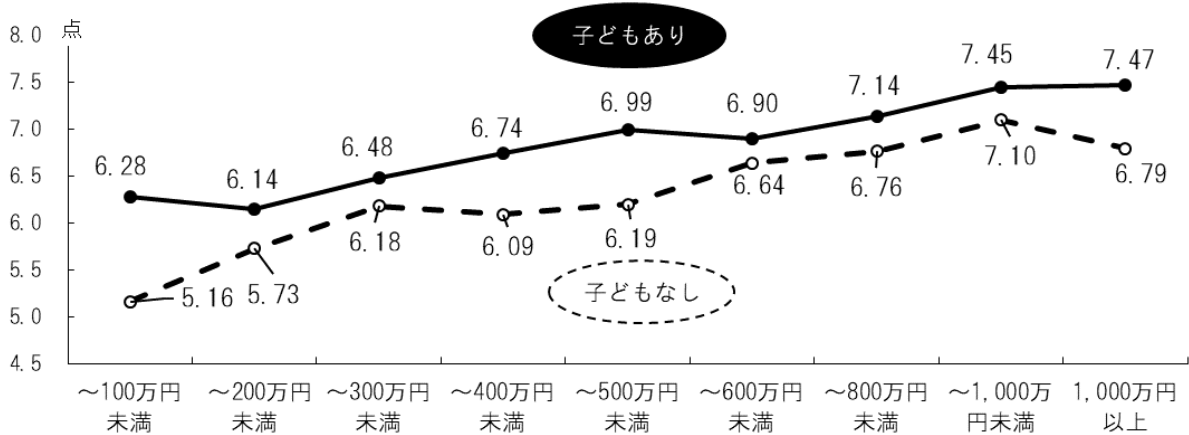
図表1-3-6 幸福感（世帯収入別×性別×未婚・有配偶別）



(4) 世帯収入別×子どもの有無別

世帯収入別×子どもの有無別に幸福感を見ると、子どもありの層が子どもなしの層よりも幸福感が高くなっています。100万円未満、400万円以上500万円未満で幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-7）。

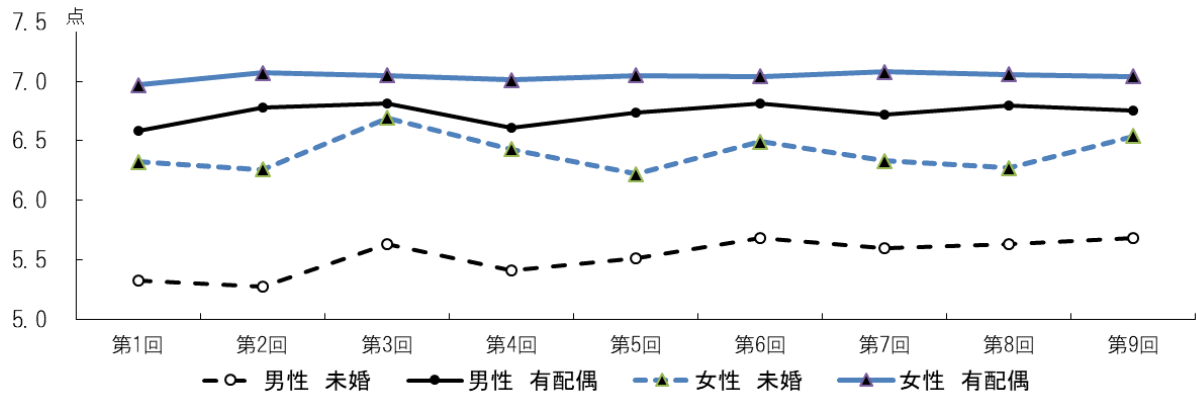
図表1-3-7 幸福感（世帯収入別×子どもの有無別）



参考1 属性ごとの幸福感の過去からの推移

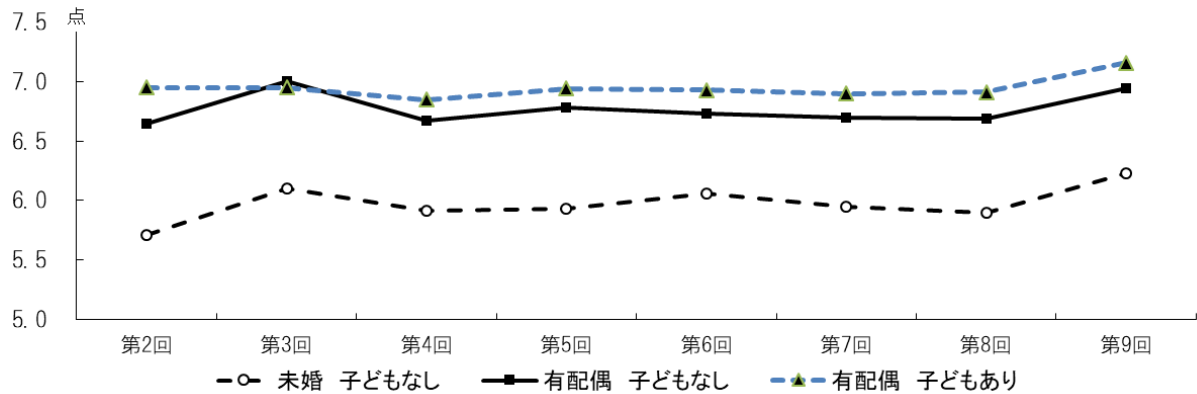
○未婚と有配偶の幸福感について、さらに性別で幸福感の推移を見ていくと、すべての回で有配偶の女性、有配偶の男性、未婚の女性、未婚の男性の順で高くなっています（図表 参考1）。

図表 参考1 未婚・有配偶×性別の幸福感



○未婚と有配偶の幸福感について、さらに子どもの有無で幸福感の推移を見ていくと、概ね有配偶子どもありの層、有配偶子どもなしの層、未婚子どもなしの層の順に高くなっています（図表 参考2）。

図表 参考2 配偶関係×子どもの有無



（備考）第1回調査では子どもの希望について質問していないため、第2回以降の調査結果を記載しています。

第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

1 幸福感を判断する際に重視した事項の回答者全体の状況

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」(69.5%)が最も高く、次いで「家族関係」(68.3%)、「家計の状況」(60.3%)の順となっています。また、第1回から第9回調査まで、9回連続、これらの事項が上位3位を占めています(図表1-4-1)。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
1	家族関係			健康状況		家族関係		健康状況	
2	健康状況			家族関係		健康状況		家族関係	
3	家計の状況			家計の状況		家計の状況		家計の状況	

なお、調査方法等が同一ではないので単純な比較はできませんが、国の直近の調査では上位3項目は県と同一となっています(図表1-4-2)。

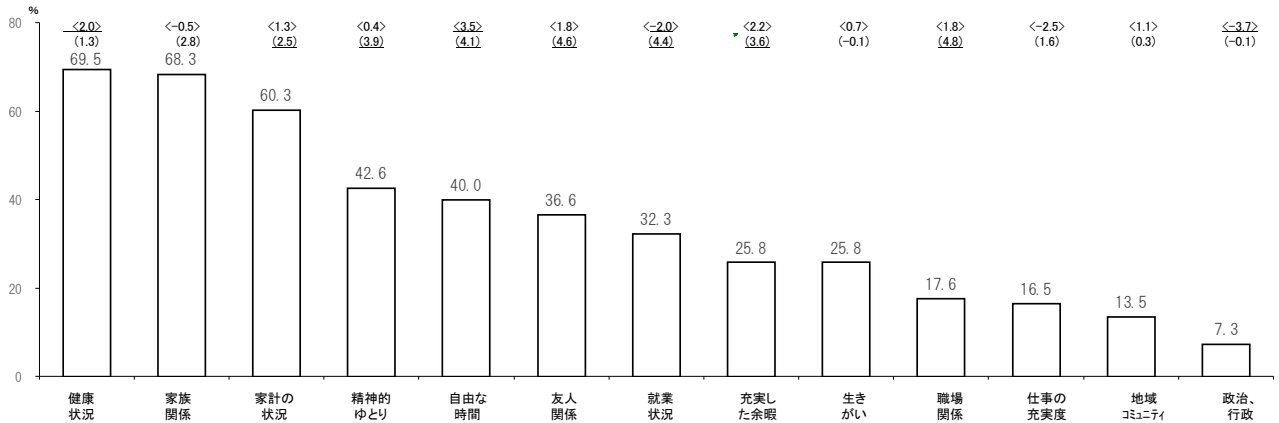
【凡例】

< >内の数字：第1回調査との差(ポイント)

()内の数字：前回調査との差(ポイント)

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

図表1-4-1 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



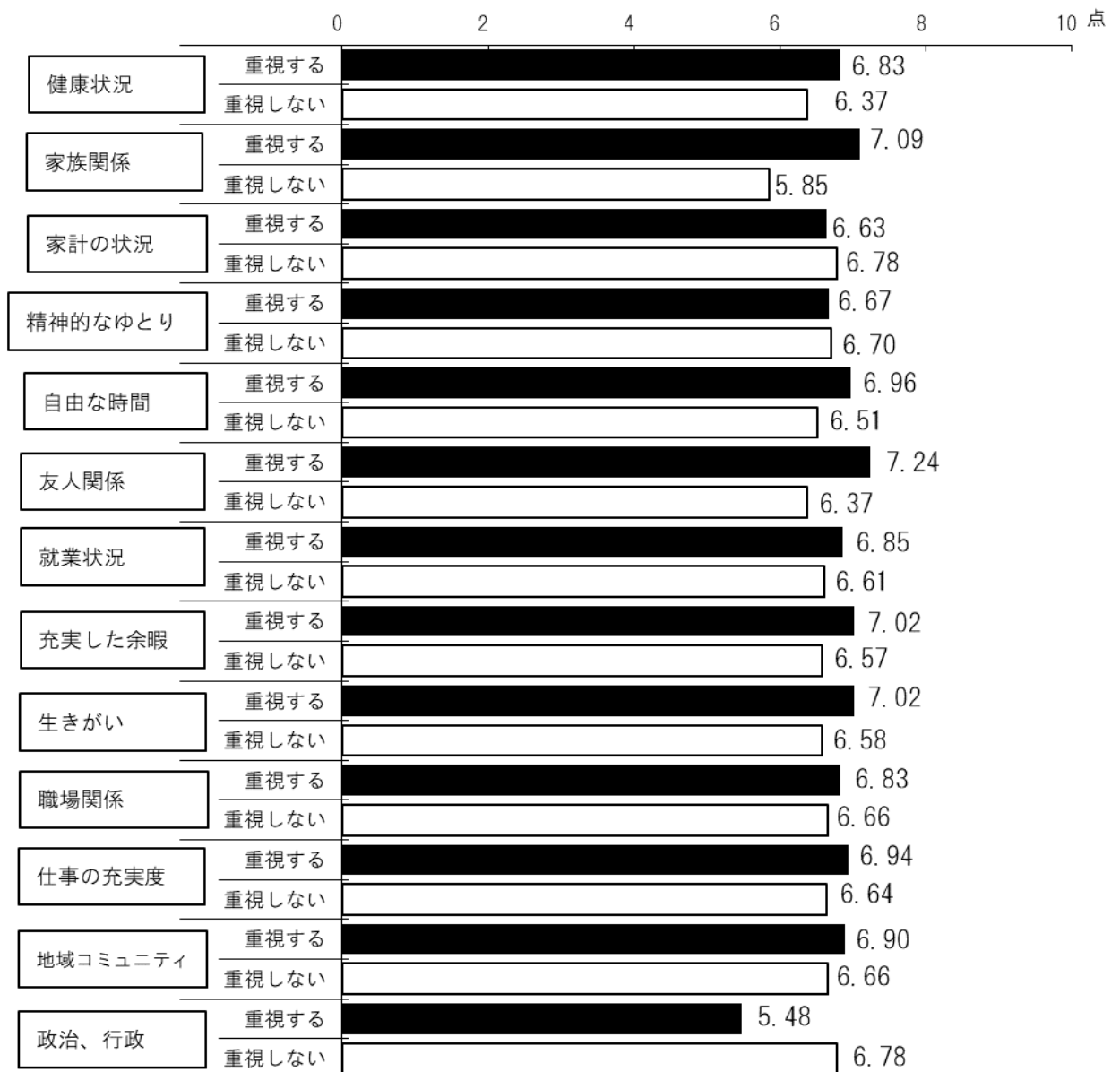
図表1-4-2 参考とした国の調査

- ◎ 平成26年健康意識調査(実施主体：厚生労働省)
- ◎ 質問「前問で幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。」(3つまで)
注)国の選択肢には「政治、行政」がありません。
- ◎ 調査結果
・健康状況(54.6%)、家計の状況(47.2%)、家族関係(46.8%)

2 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した（重視する）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福感を比較したところ、概ね各事項において重視した人の幸福感は、重視しなかった人より高くなっていますが、「家計の状況」、「精神的なゆとり」、「政治、行政」では、結果が逆転しています（図表 1-4-3）。

図表 1-4-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福感の平均値



3 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感の度合いの関係

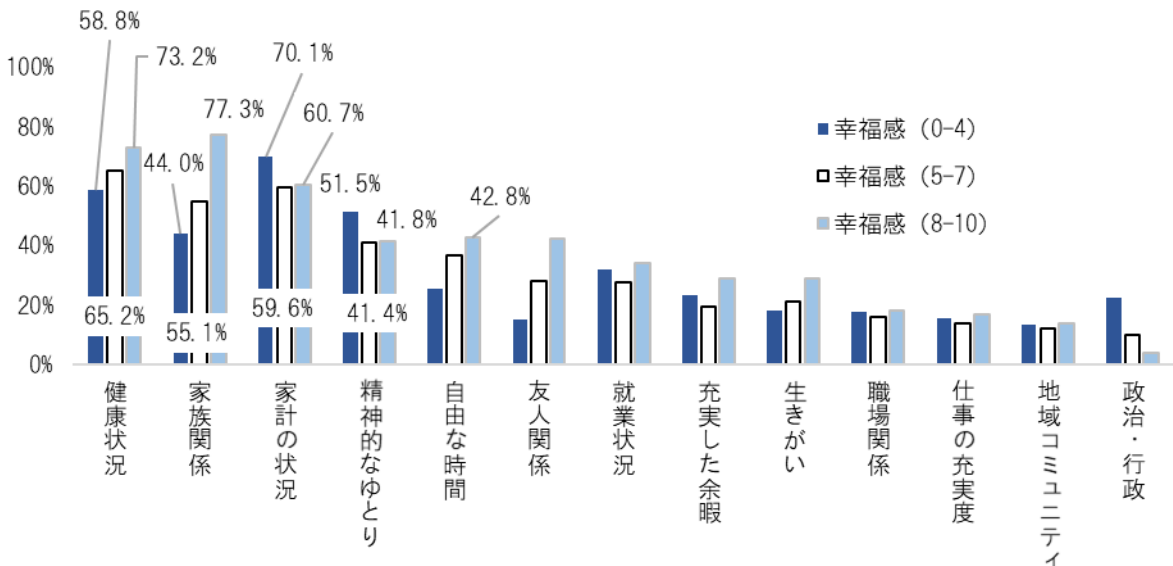
幸福感について、「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

幸福感「0～4点」のグループでは、「家計の状況」(70.1%)が最も高く、次いで「健康状況」(58.8%)、「精神的なゆとり」(51.5%)の順となっており、他のグループでは上位3項目にある「家族関係」(44.0%)が4番目となっています。

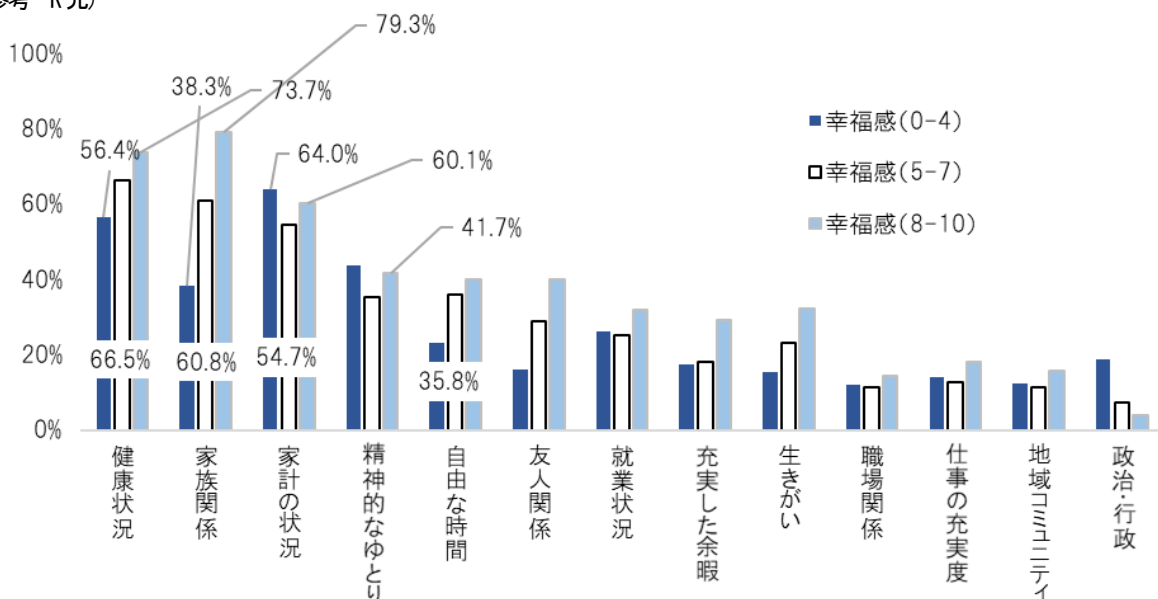
幸福感「5～7点」のグループでは、「健康状況」(65.2%)が最も高く、次いで「家計の状況」(59.6%)、「家族関係」(55.1%)の順となりました。

幸福感「8～10点」のグループでは、「家族関係」(77.3%)が最も高く、次いで「健康状況」(73.2%)、「家計の状況」(60.7%)の順となり、「5～7点」のグループとは順位が異なるものの、上位3項目は同じ事項でした。4番目に高かった事項について、「5～7点」のグループでは「精神的なゆとり」(41.4%)、「8～10点」のグループでは「自由な時間」(42.8%)となっています(図表1-4-4)。

図表1-4-4 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感



(参考 R元)



第5節 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

1 幸福感を高める手立ての回答者全体の状況

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」(64.2%)が最も高く、次いで「自分自身の努力」(55.8%)、「友人や仲間との助け合い」(23.2%)の順となっています(図表 1-5-1)。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
1	—	家族との助け合い							
2	—	自分自身の努力							
3	—	友人や仲間との助け合い	国や地方の政府からの支援	友人や仲間との助け合い	国や地方の政府からの支援	友人や仲間との助け合い	国や地方の政府からの支援	友人や仲間との助け合い	友人や仲間との助け合い

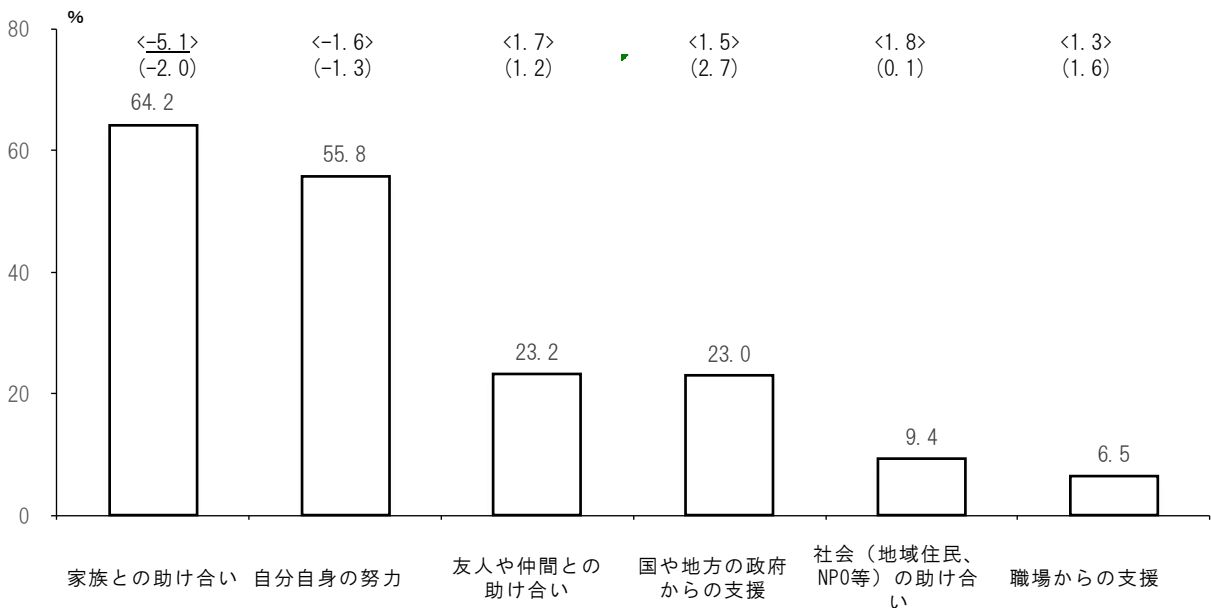
【凡例】

< >内の数字：第2回調査との差（ポイント）

()内の数字：前回調査との差（ポイント）

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

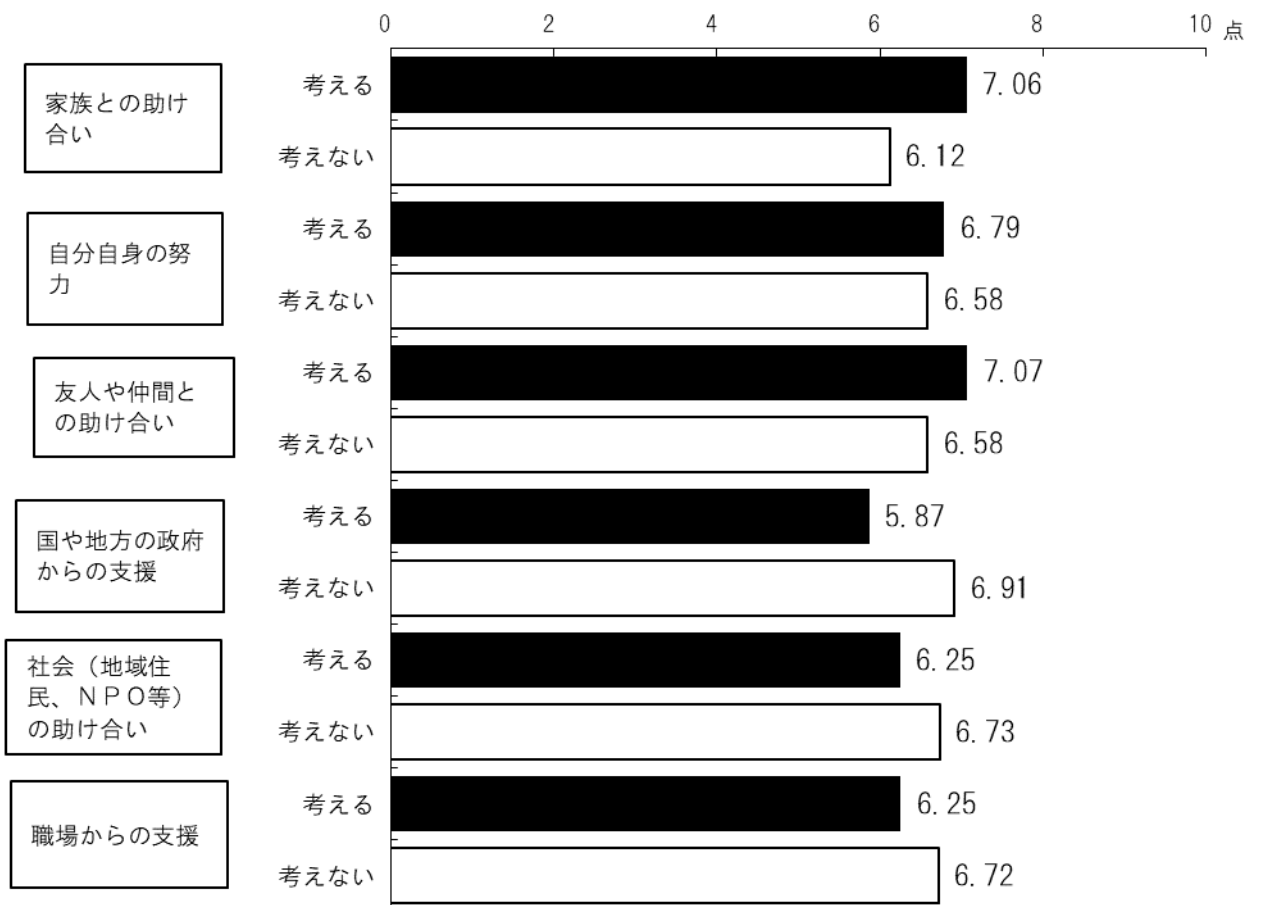
図表 1-5-1 幸福感を高める手立て



2 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

幸福感を高める手立てについて、その事項を選択した(有効な手立てと考えた)人の幸福感の平均値と、選択しなかった(有効な手立てと考えなかった)人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」及び「友人や仲間との助け合い」では、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より高くなっています。それ以外の項目については、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より低くなっています(図表 1-5-2)。

図表 1-5-2 幸福感を高める手立てを選択した(有効な手立てと考える)人と選択しない(考えない)人の幸福感の平均値



3 幸福感を高める手立てと幸福感の度合いの関係

幸福感を高める手立てについて、幸福感「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

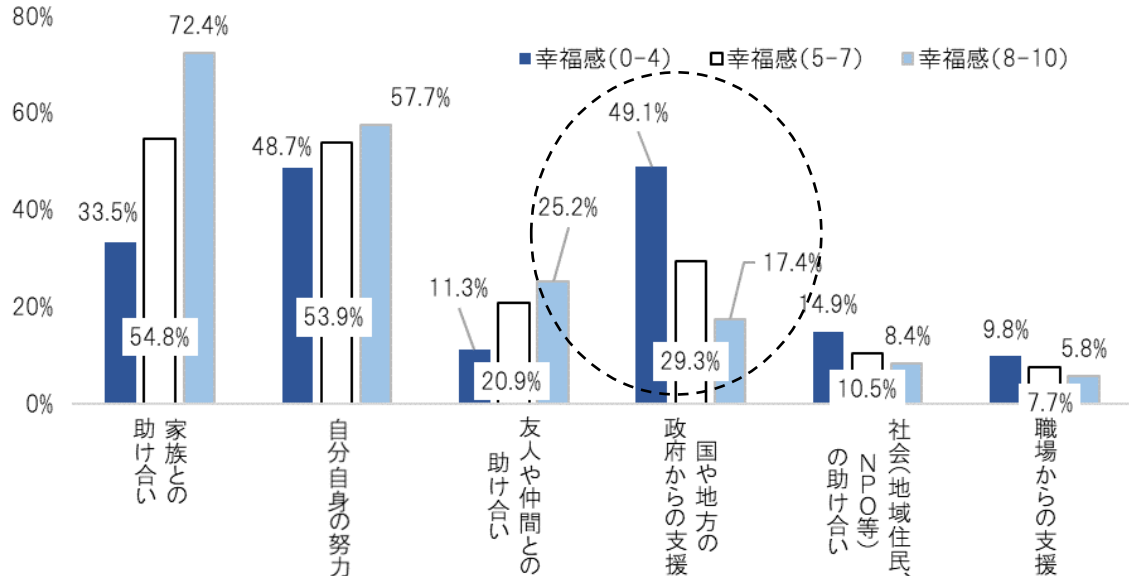
幸福感「0～4点」のグループでは、「国や地方の政府からの支援」(49.1%)が最も高く、次いで「自分自身の努力」(48.7%)、「家族との助け合い」(33.5%)の順となりました。

幸福感「5～7点」のグループでは、「家族との助け合い」(54.8%)が最も高く、次いで「自分自身の努力」(53.9%)、「国や地方の政府からの支援」(29.3%)の順となりました。

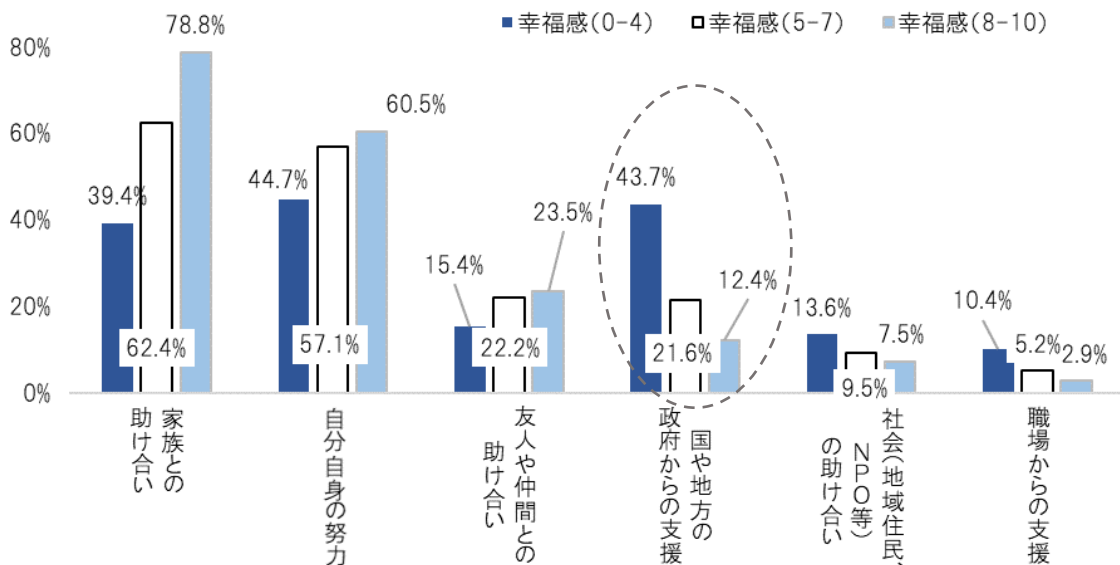
幸福感「8～10点」のグループでは、「家族との助け合い」(72.4%)が最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.7%)、「友人や仲間との助け合い」(25.2%)の順となり昨年度と同じ順でした。

全体的に、「国や地方の政府からの支援」を有効な手立てと考える人の割合が昨年度よりも高くなっています(図表1-5-3)。

図表1-5-3 幸福感を高める手立てと幸福感



(参考：R元)

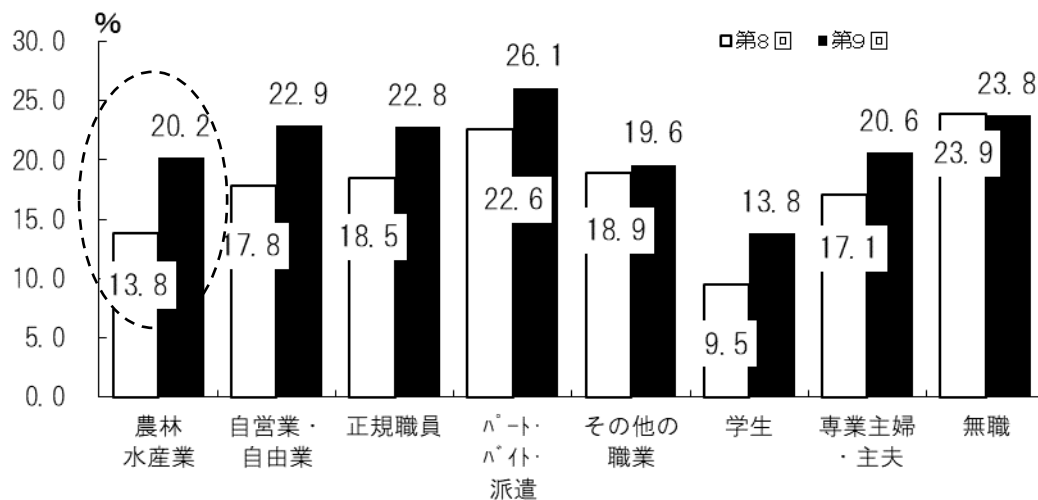


いずれも第8回調査より上がっている「国や地方の政府からの支援」に注目すると、職業別で農林水産業が第8回調査より6.4ポイント増加していることから、令和元年の豚熱の発生やアコヤガイのへい死などにより生産者の皆さんからの行政への期待が高まっていることが推察されます(図表 1-5-4)。

また、無職を除く他の職業分類でも「国や地方の政府からの支援」の割合が増加していました。

本調査の調査期間は県内をはじめ全国で、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えつつあった時期にあたり、自由意見にも新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を求める声があったことから、県民の皆さんの「国や地方の政府からの支援」への期待が高くなったことも推察されます。

図表 1-5-4 幸福感を高める手立てで国や地方の政府からの支援を選択した人(職業別)



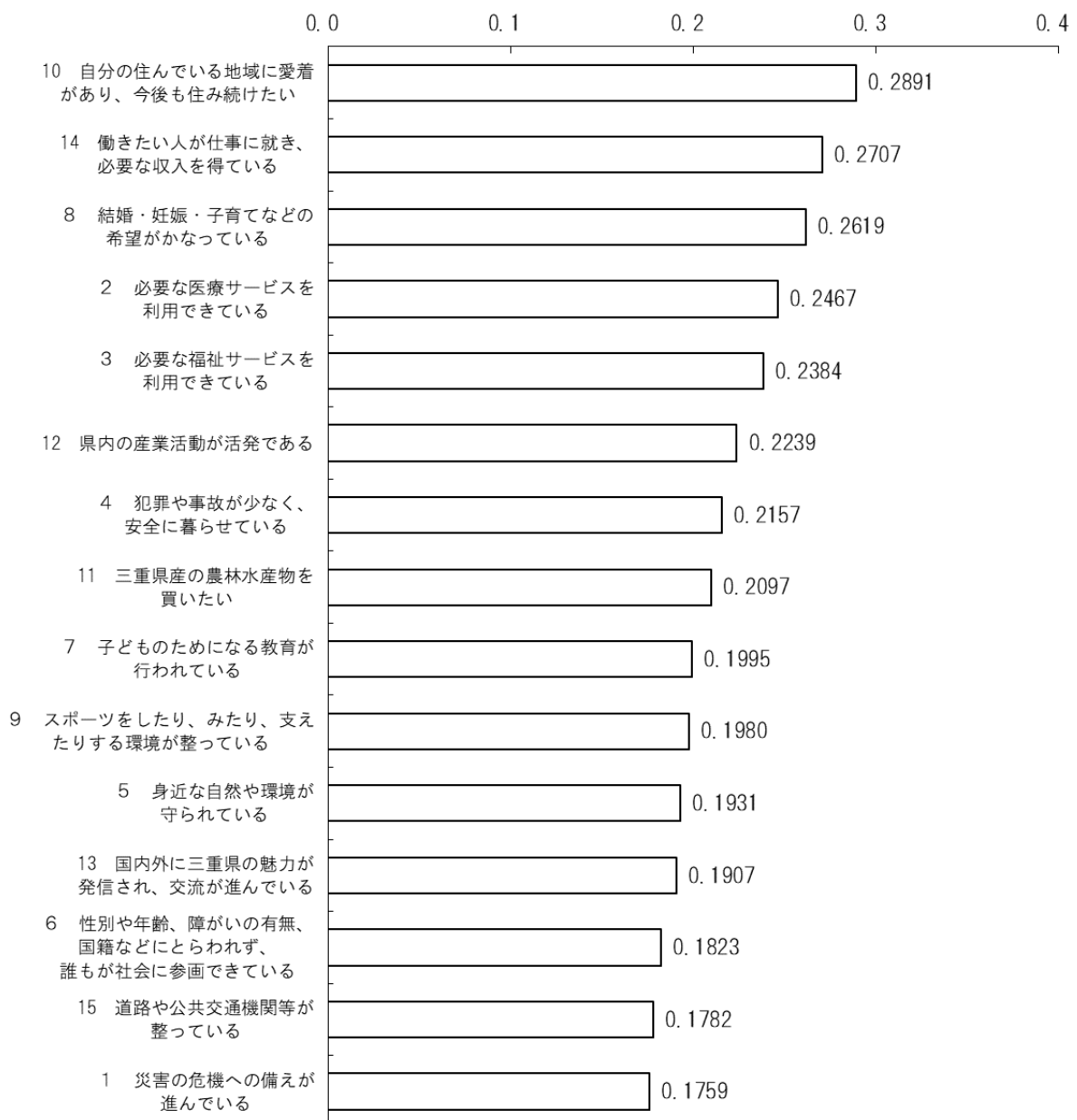
第6節 幸福感と幸福実感指標等との関係

1 幸福感と15の幸福実感指標との相関関係

幸福感と15の幸福実感指標との相関係数を算出したところ、相関係数がおおよそ0.1～0.3の範囲であることから、正の相関関係があり、幸福実感指標に係る実感が高い人ほど幸福感が高いという関係にあります。

上位3指標は、「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」、「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっている」であり、昨年に引き続き、この3つの幸福実感指標が上位を占めています（図表1-6-1）。

図表1-6-1 幸福感と15の幸福実感指標との相関係数

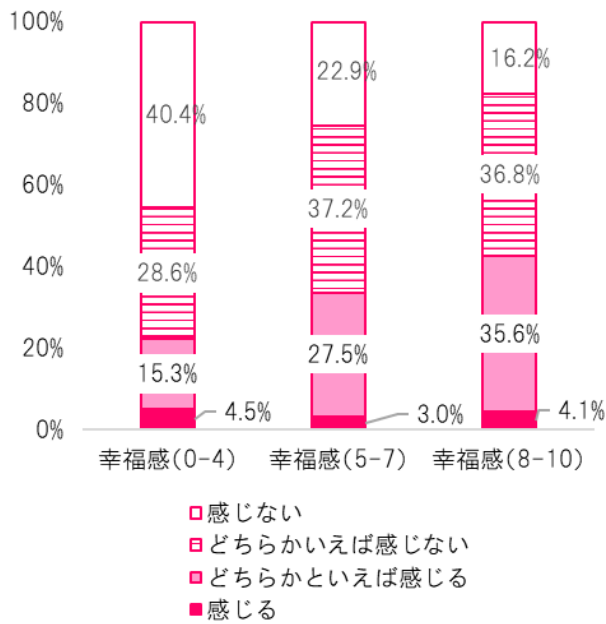


2 幸福実感指標と幸福感の度合いの関係

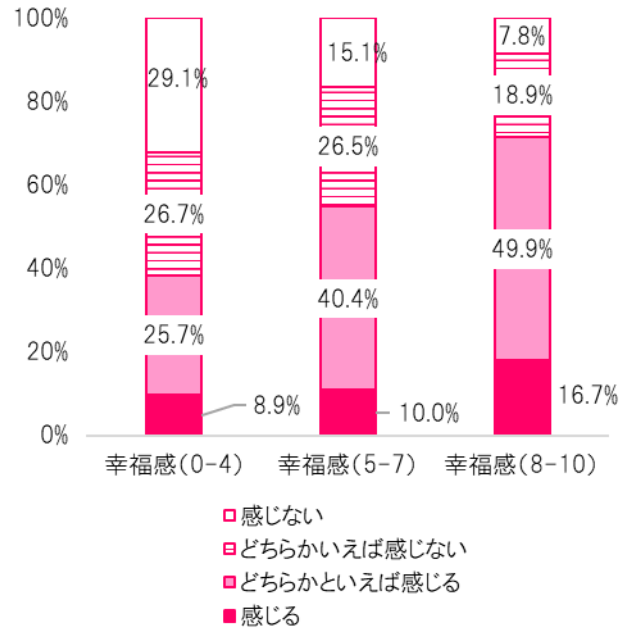
幸福実感指標について、幸福感「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

全体を通じて、幸福感「8～10点」のグループの人は、幸福実感指標について「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた割合が、「0～4点」、「5～7点」のグループより高くなっています(図表1-6-2)。

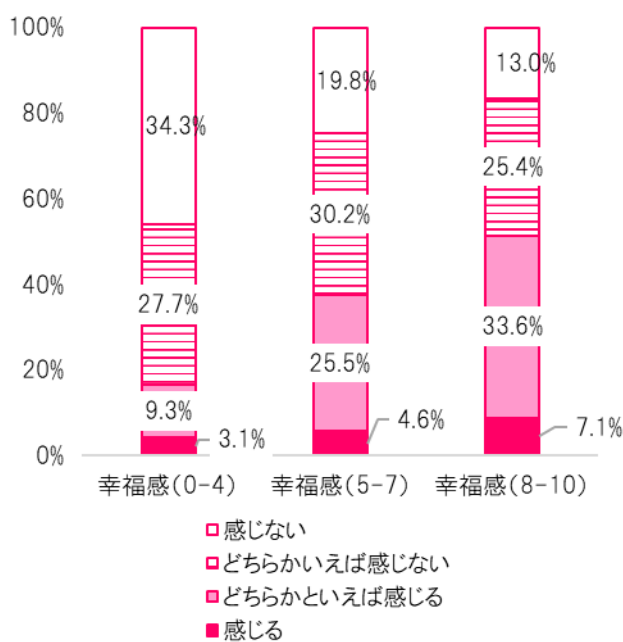
図表1-6-2(1) 災害の危機への備えが進んでいる



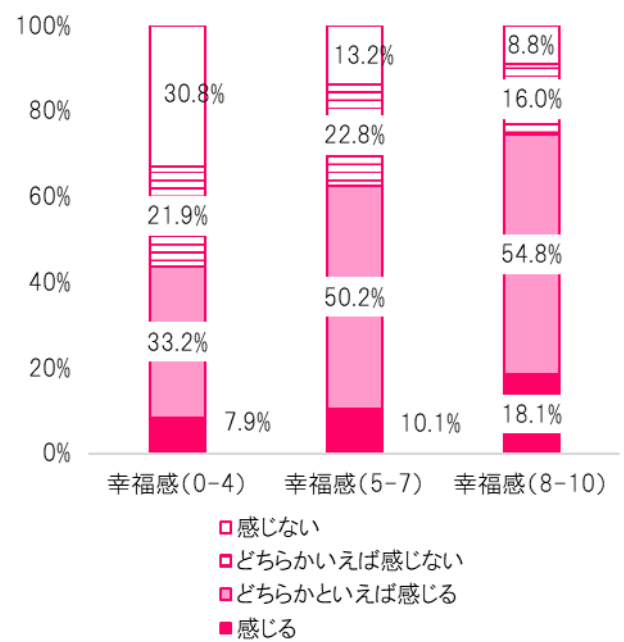
図表1-6-2(2) 必要な医療サービスを利用できている



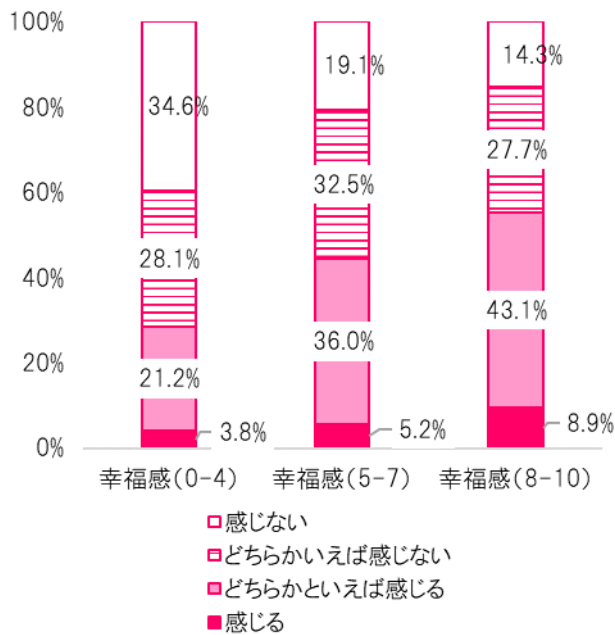
図表1-6-2(3) 必要な福祉サービスを利用できている



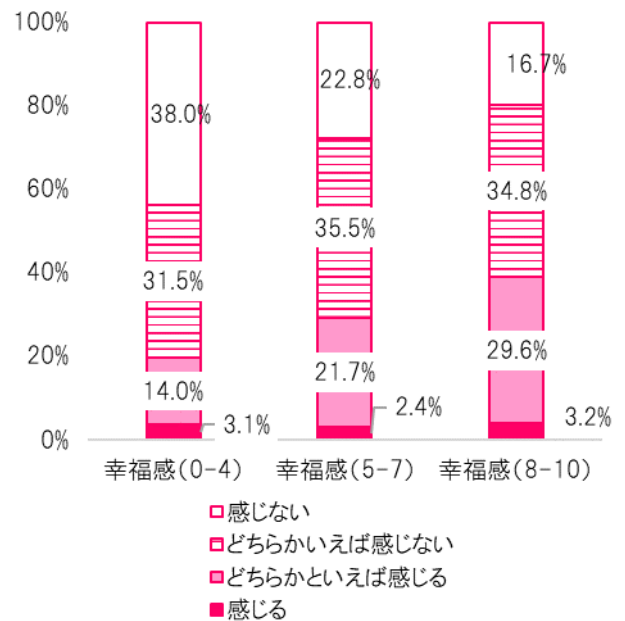
図表1-6-2(4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている



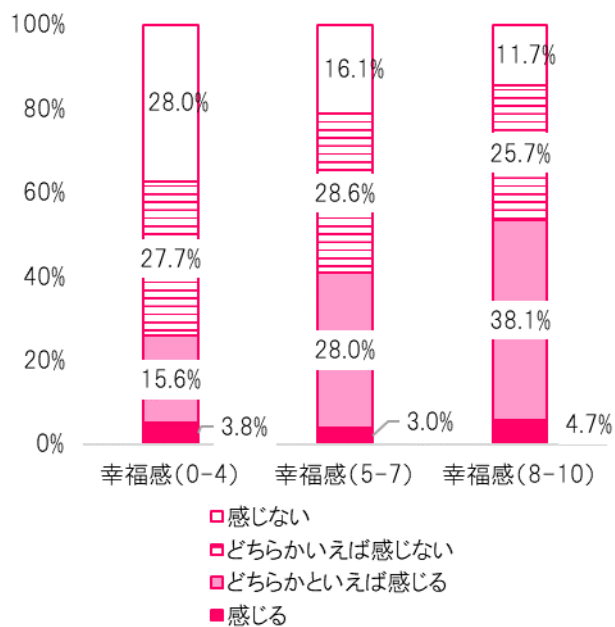
図表 1-6-2 (5) 身近な自然や環境が守られている



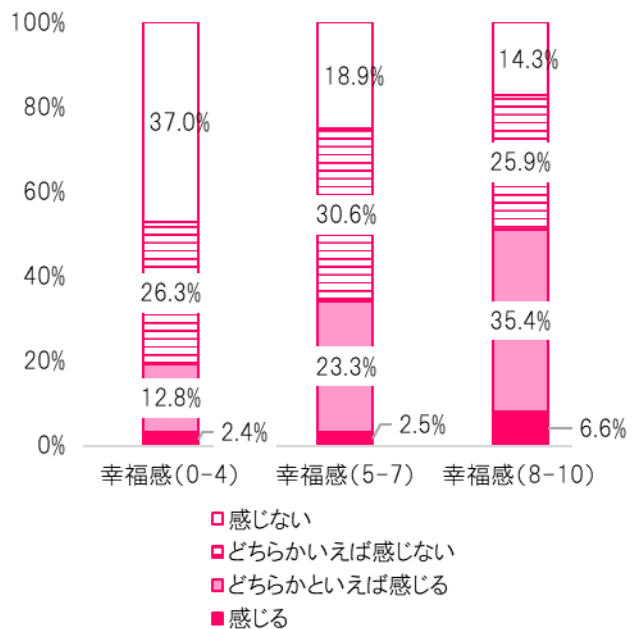
図表 1-6-2 (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている



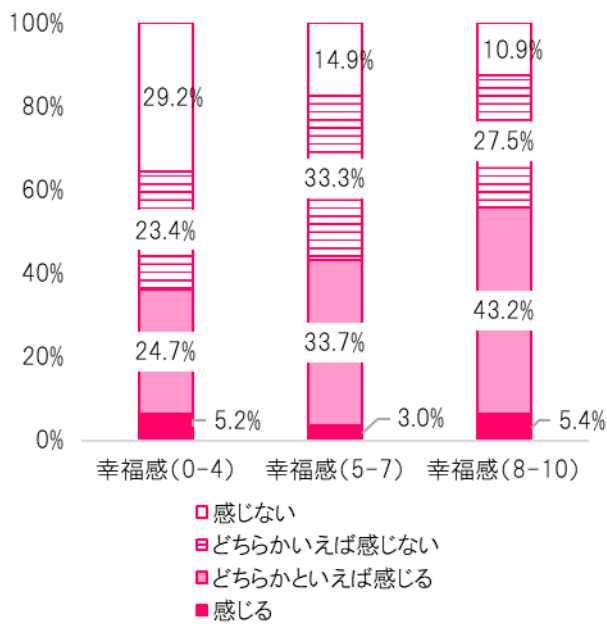
図表 1-6-2 (7) 子どものためになる教育が行われている



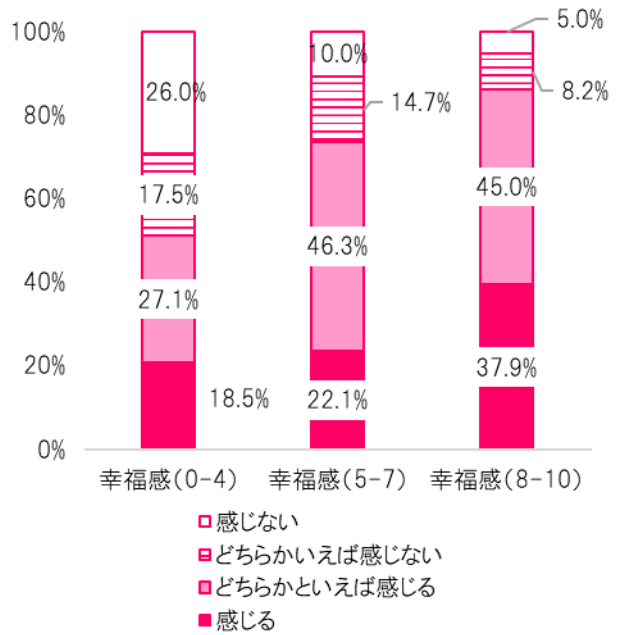
図表 1-6-2 (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっている



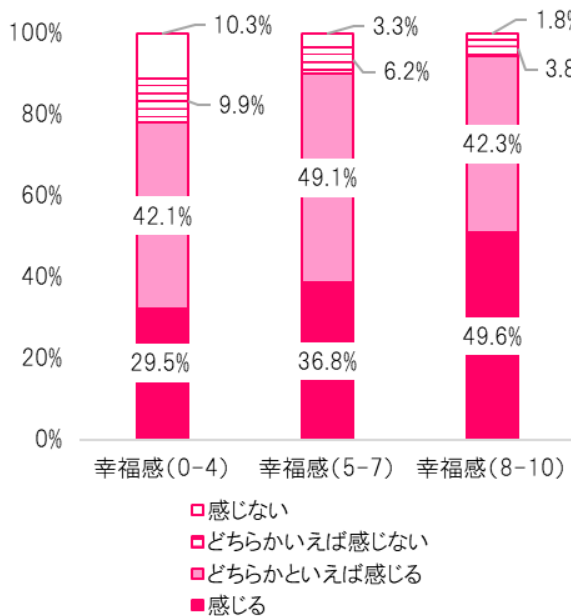
図表 1-6-2 (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする
環境や機会が整っている



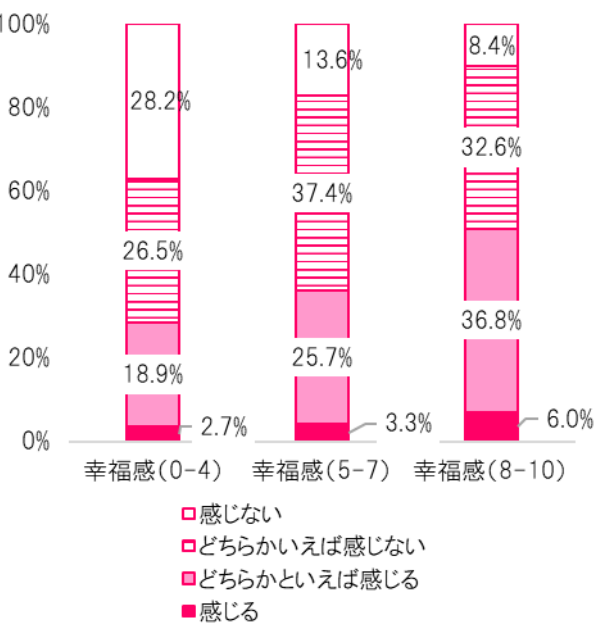
図表 1-6-2 (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、
今後も住み続けたい



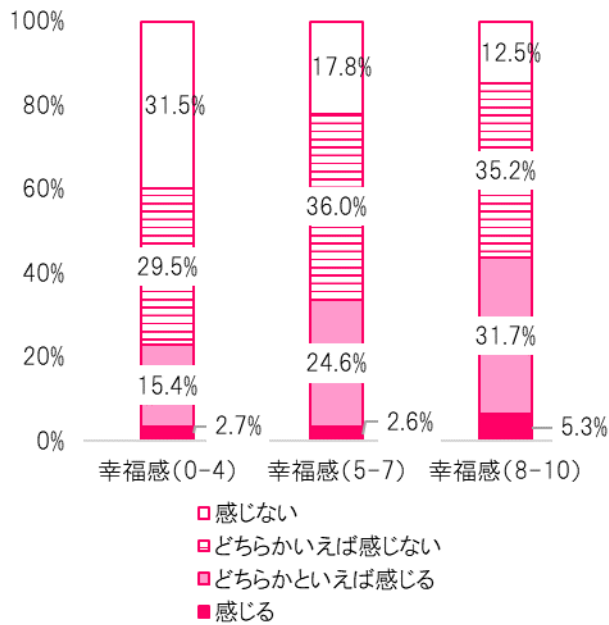
図表 1-6-2 (11) 三重県産の農林水産物を買いたい



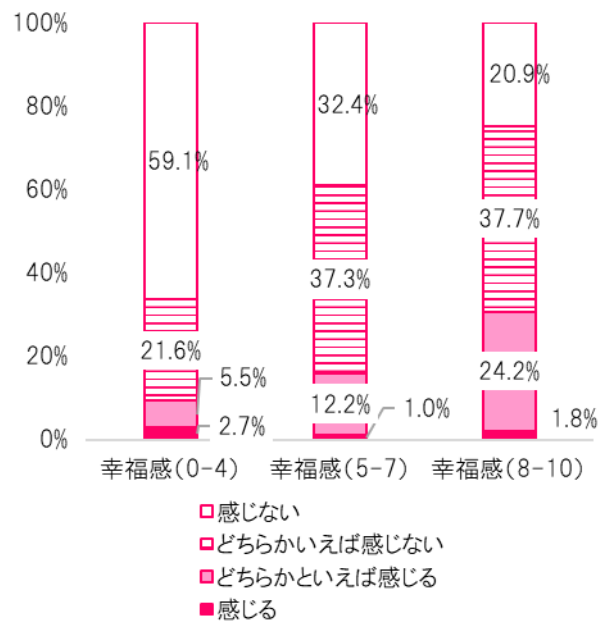
図表 1-6-2 (12) 県内の産業活動が活発である



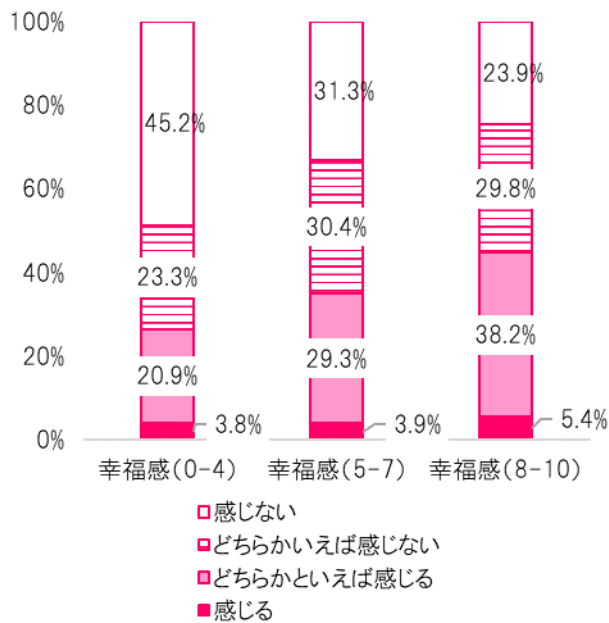
図表 1-6-2(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる



図表 1-6-2(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている



図表 1-6-2(15) 道路や公共交通機関等が整っている



■幸福感の現状からの政策の示唆

これまでの「みえ県民意識調査」と同じく、今回調査においても、男性より女性、未婚より有配偶、子どもがいない層より子どもがいる層、単独世帯より複数人世帯の幸福感が高い傾向にあること、世帯収入が低いより高いほうが、幸福感が概ね高くなる傾向にあることが確認できました。

幸福感を判断する際に重視した事項の上位は、前回調査までと同様、「健康状況」や「家族関係」、「家計の状況」となり、幸福感を高める手立ての上位は、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「友人や仲間との助け合い」となりました。

幸福感を判断する際に重視した事項について、幸福感の度合い別に分析したところ、幸福感の低い人は「家計の状況」、「健康状況」、「精神的なゆとり」の順となりました。幸福感の中程度の人は「健康状況」、「家計の状況」、「家族関係」となりました。幸福感の高い人は、「家族関係」、「健康状況」、「家計の状況」の順となり、幸福感の中程度の人と順位は異なるものの、上位3項目は同じであることがわかりました。

また、幸福感を高める手立てについて幸福感の度合い別に分析したところ、幸福感の低い人は「国や地方の政府からの支援」、「自分自身の努力」、「家族との助け合い」の順となりました。幸福感の中程度の人は、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「国や地方の政府からの支援」の順となり、幸福感の低い人と順位は異なるものの、上位3項目は同じであることがわかりました。幸福感の高い人は「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「友人や仲間との助け合い」の順となりました。

さらに、幸福感を高める手立てについて、「国や地方の政府からの支援」を有効と考える人の割合が全体的に昨年度よりも高くなっています。特に、職業別で、農林水産業が第8回調査より 6.4 ポイント増加していることから、令和元年の豚熱の発生やアコヤガイのへい死などにより生産者の皆さんから行政への期待が高まっていることが推察されます。た、無職を除く他の職業分類でも「国や地方の政府からの支援」の割合が増加していました。

本調査の調査期間は県内をはじめ全国で、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えつつあった時期にあたり、自由意見にも新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を求める声があったことから、県民の皆さんの「国や地方の政府からの支援」への期待が高くなったことも推察されます。

幸福実感指標については、幸福実感が高い人ほど幸福感が高いという関係があり、特に他の指標と比較して、

- 「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、
 - 「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」、
 - 「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっている」、
- の指標に一定の相関がみられました。

こうしたことから、引き続き、少子化対策や地域への愛着を高める施策、健康づくりに関する施策を進め、働く場を確保し、安定した収入を得られる環境を作っていくことが、県民の皆さんの幸福感を高めていくことに関係があると考えられます。

さらに、家族や友人、仲間との助け合いを促進する取組や精神的なゆとりが得られる環境、アクティブ・シチズンとして自ら行動する個人の努力が認められる環境づくり、状況に応じた国や地方の政府からの支援も必要であると考えられます。